

# 経済・金融フラッシュ

No.07-072 2007/09/18

## 07年4-6月期資金循環統計～個人金融資産は過去最高を更新

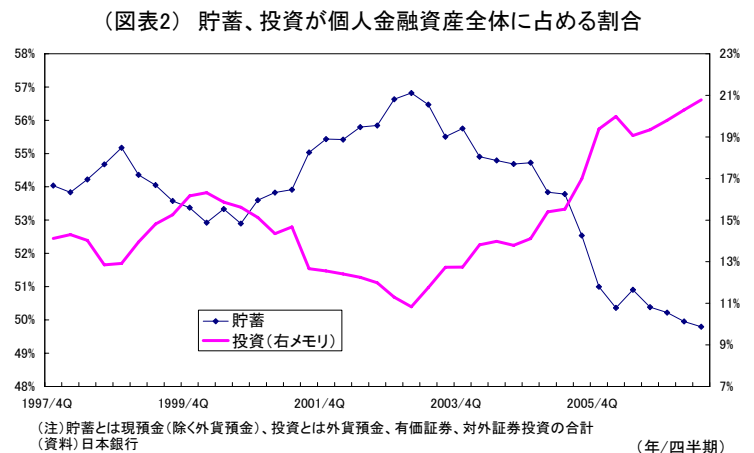
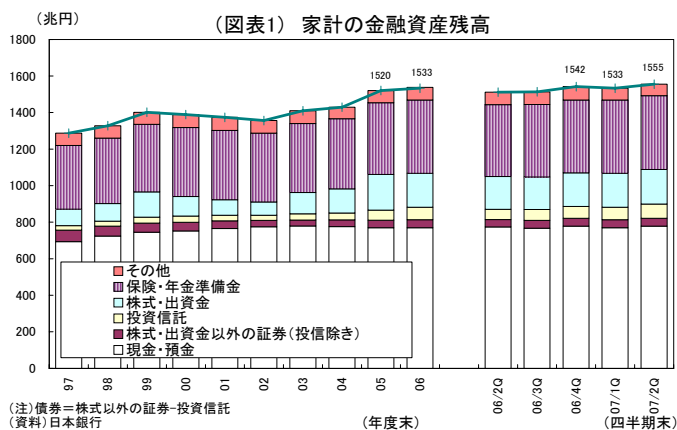
ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 個人金融資産残高（07年4-6月期末）：過去最高を更新

07年4-6月期末の個人金融資産残高は、1-3月期から22兆円増の1,555兆円と過去最高を更新した（図表1）。

残高では、現金・預金が778兆円で個人金融資産全体に占める割合が約50%とウェートが高いが、図表2のように貯蓄と投資に分けてみると、確実に投資への動きが続いていることが確認できる。



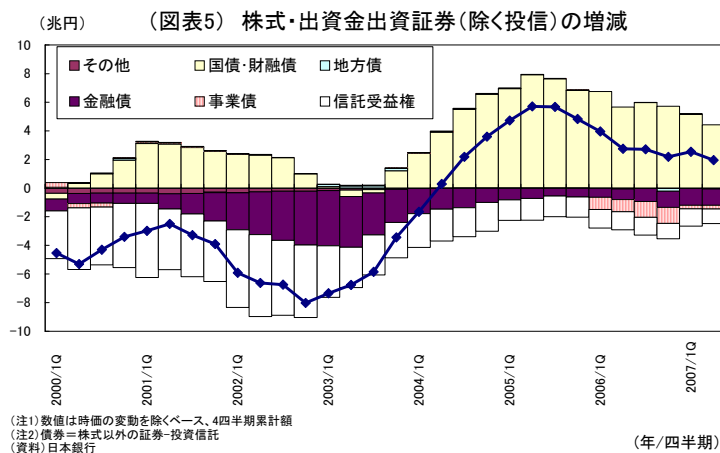
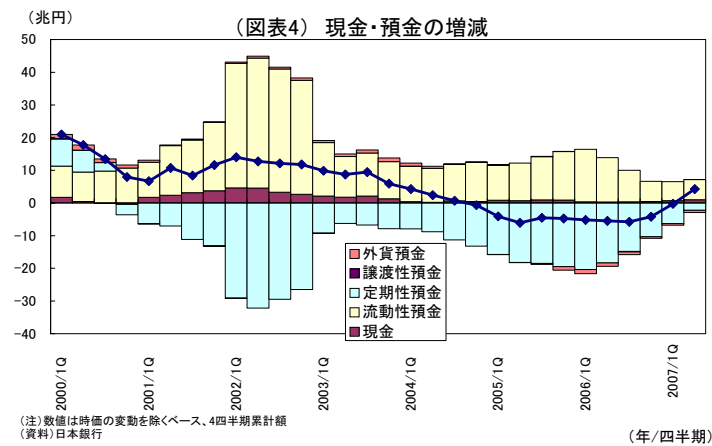
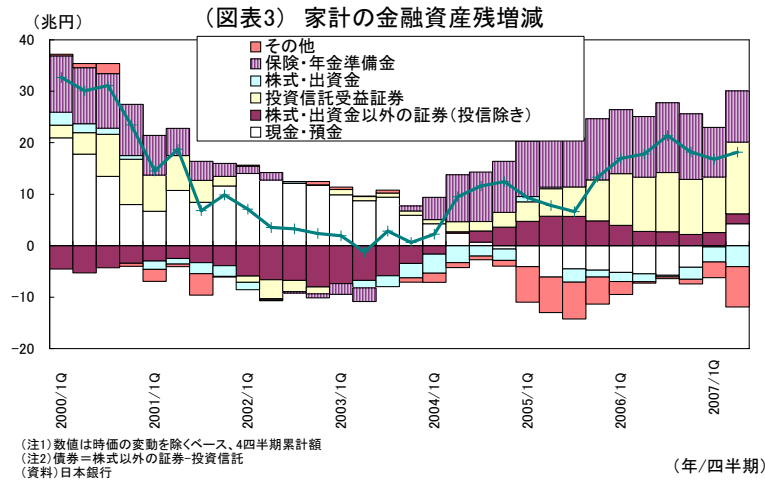
### 2. フローの動き：現金・預金が04年7-9月期以来のプラスに

増加の内訳を見ると（時価の増減を除き、4四半期累計での金額）、増加が大きいの投資信託（13.9兆円）、保険・年金準備金（9.9兆円）となっている。一方減少が大きいの株式・出資金（マイナス4.1兆円）となっている（図表3）。

現金・預金は2004年7-9月期以来のプラスに転じた（時価の増減を除き、4四半期累計での金額）。

定期預金（マイナス2.2兆円）、外貨預金（マイナス0.7兆円）は減少したが、流動性預金が6.2兆円と大きく増加している（図表4）。

証券（投信信託を除く株式・出資金以外の証券）の動きでは、引き続き金融債、信託受益権、事業債からの資金流出が続く。一方国債への流入はプラスが続いているが、流入額は縮小傾向が続いている（図表5）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)